

責任者	法学部長	作成部局	法学部
-----	------	------	-----

2021年度に向けた教育研究目標

【A票:教育研究目標1】

(タイトル)
科学的な思考方法の修得

(狙い内容)
対象を直観的・主観的ではなく、客観的・多面的に観察し、論理的に分析を進めていく方法を身につけること。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

初年次におけるスタートアップ演習において、「調べたうえで読む・話す・書く」というスタディー・スキルを十分に身につけたうえで、法学・政治学の専門科目を「入門科目から専門科目へ」というスパイラル構造に従って効果的に学習し、また研究者教員以外の弁護士や司法書士などによる講義や演習、経済学部との連携講義での地方行政に現在携わる公務員による講義や演習を受講し、さらに法学部で開催される他大学の教員の講演会に積極的に参加することにより、対象を客観的・多面的に観察し、論理的に分析できる力をしっかりと身につけること。

<変更時記入欄>

<変更理由記入欄:2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>

2. 達成度評価

評価指標	①スタートアップ演習受講生のアンケート調査によるスキルの十分な達成の割合。 ②スタートアップ演習受講生のアンケート調査によるLAIに対する十分な満足度の割合。 ③研究者教員以外の講義や演習の各学期の履修者の数。	評価尺度	A: ①70%以上 ②90%以上 ③3000人以上 B: ①50%~69% ②80%~89% ③2500人~2999人 C: ①30%~49% ②60%~79% ③2300人~2499人 D: ①30%未満 ②60%未満 ③2300人未満	変更有無 有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>
	<変更時記入欄>		<変更時記入欄> A: B: C: D:	

3. 年度毎の目標値

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	変更有無
2015年度 (計画策定時)		①C②C③D	①C②C③C	①C②C③B	①B②C③B	①B②B③B	①B②B③B	①A②A③A	
		①(31%) ②(61%) ③(2280人)	①(38%) ②(65%) ③(2400人)	①(45%) ②(70%) ③(2500人)	①(50%) ②(75%) ③(2600人)	①(56%) ②(80%) ③(2700人)	①(62%) ②(85%) ③(2800人)	①(70%以上) ②(90%以上) ③(3000人以上)	
2016年度 進捗状況 & 今後の 目標値	評価 尺度: A~D	<実績> C	実績	<2016年度末時点の見込み又は実績又は目標> C					有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>
	見込・実績・目標 (値又は状況)	<実績> ①C:30% ②C:66% ③A:2933人		<2016年度末時点の見込み又は実績又は目標> ①C:33% ②C:63% ③A:3265人					

【2016年度の進捗状況について】

2016年度は、①のスタートアップ演習受講生のアンケート調査によるスキルの十分な達成の割合は上昇したが、②のLAIに対する十分な満足度は昨年度より少し減少した。これは、昨年度が当初の目標値よりもかなり高かったことによるのであり、本年度の目標値はほぼ達成されている。次年度の状況を注視したい。また、③の研究者教員以外の講義や演習の各学期の履修者数は、すでに2021年度の目標値を上回っており、これは学生がこのような講義や演習に参加することで、科学的な思考方法を修得したいという意識の高さを示すものである。こちらも次年度以降の状況を注視したい。

<変更理由記入欄:評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>

2016年度の取組み状況の確認

2016年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか? → はい・いいえ

<上記で「いいえ」を選んだ場合>

①理由:

②今後必要な取組み:

<評価専門委員会・第三者評価結果> 2017年1月27日公示

- 科学的な思考方法の修得に関する取組みは、順調に進展しています。(A)
- 一部注意が必要な点がありますが、全体として進展しています。(C)
- 概ね取組みは適切に行われていることが窺えます。が、強いて言えば2016年度の取組みを通して浮かび上がった今後の課題等を明確にして記述しておくことが望まれます。その課題にどう取り組むんでいくのかということが今後のPDCAサイクルの運用に繋がるのではないのでしょうか?(D)
- 科学的な思考法の修得という目標をめぐって、その進捗状況の確認も含め、具体的に数値を上げて、詳細に記述されて、適切であると思われます。(E)
- 「年度ごとの目標値」の③の指標に掲げられている「研究者教員以外の講義や演習」というのはたとえばどのようなものなのでしょうか?どのようなことを狙いとしているのでしょうか?(I)

【A票:教育研究目標2】

(タイトル)
広範な知識と社会的視野の獲得

(狙い内容)
法学・政治学の専門教育のみに止まらず、歴史学、哲学、心理学、社会学、経済学などの諸科学が明らかにしてきた広範な知識を身につけ、さらに広範な社会的現実に常に目を向けられるようにすること。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

法学・政治学の専門教育だけに止まらず、歴史学・哲学・心理学・社会学・経済学などの諸科学が明らかにしてきた広範な知識を身につけ、さらに広範な社会的現実に常に目を向けることができるように、単なる他学部履修ではなく、他学部及び学部以外のセンター等から提供されたプログラム〔副専攻プログラム〕を学ぶことにより、広範な知見と深い専門性を備えること。

<変更時記入欄>

<変更理由記入欄:2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>

2. 達成度評価

評価指標	副専攻プログラムの受講者を増加させる。副専攻プログラムの受講者数。	評価尺度	A : 100人以上 B : 60人~99人 C : 30人~59人 D : 30人未満	変更有無
	<変更時記入欄>		<変更時記入欄> A : B : C : D :	

3. 年度毎の目標値

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	変更有無
2015年度(計画策定時)		D (27人)	C (30人)	C (35人)	C (45人)	C (55人)	B (70人)	B (80人以上)	
2016年度進捗状況 & 今後の目標値	評価尺度: A~D	<実績> C	実績	<2016年度末時点の見込み又は実績又は目標> C					
	見込・実績・目標(値又は状況)	<実績> 43人		<2016年度末時点の見込み又は実績又は目標> 53人					

【2016年度の進捗状況について】

副専攻プログラムの受講者は昨年度より10名増加しており、最終目標値の達成に向けて順調に推移している。次年度以降も、学生が広範な知識と社会的視野の獲得を目指して副専攻プログラムを受講することを期待する。

<変更理由記入欄:評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>

2016年度の取組み状況の確認

2016年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか？ → はい・ いいえ

<上記で「いいえ」を選んだ場合>

①理由:

②今後必要な取組み:

<評価専門委員会・第三者評価結果> 2017年1月27日公示

- ・ 副専攻プログラムの取組みは、順調に進展しています。(A)
- ・ 具体的な目標に従って、進展しています。(C)
- ・ 当初の目標を上回り、順調に推移していることが窺えます。状況に応じて、今後の目標の上方修正も検討してはいかがでしょうか？(D)
- ・ 広範な知識と社会的視野の獲得という目標をめぐって、具体的に進捗状況も確認され、全体的に適切なものになっています。(E)
- ・ 順調に進捗しており、評価できます。(F)
- ・ 副専攻プログラムの受講者の増加は大変評価できます。教育研究目標とも合致した取組みである上、ダブルチャレンジの推進にも直接的に繋がっていくので、目標値に限らずさらに順調に進められることを期待します。(G)

【A票:教育研究目標3】

(タイトル)

正しい価値観と豊かな人間性の形成

(狙い内容)

よりよい社会と人間の幸福の実現に向けて奉仕する精神を育み、自由と正義の実現を目指した明確な価値観を形成すること。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

よりよい社会と人間の幸福の実現に向けて奉仕する精神を育み、自由と正義の実現を目指した明確な価値観を形成するために、学部で学んだ知識を生かしながら行政機関など実社会で学ぶ実践型体験学習プログラムに積極的に参加すること。

<変更時記入欄>

<変更理由記入欄:2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>

2. 達成度評価

評価指標	実社会で学ぶ実践型体験学習プログラムへの参加者の増加	評価尺度	A : 180人以上 B : 130人~179人 C : 90人~129人 D : 90人未満	変更有無
	<変更時記入欄>		<変更時記入欄>	有・無

3. 年度毎の目標値

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	変更有無
2015年度 (計画策定時)		C (90人)	C (100人)	C (120人)	B (135人)	B (150人)	B (165人)	A (180人以上)	有・無
2016年度 進捗状況 & 今後の 目標値	評価 尺度: A~D	<実績> D	実績	<2016年度末時点の 見込み又は実績又は目標> B					
	見込・ 実績・ 目標 (値又は 状況)	<実績> 65人		<2016年度末時点の 見込み又は実績又は目標> 143人					

【2016年度の進捗状況について】

実践型体験学習プログラムへの参加者は昨年度から大幅に増加し、最終目標値に向かって順調に推移している。次年度以降も、学生が正しい価値観と豊かな人間性の形成のために、このプログラムに参加することを期待したい。

<変更理由記入欄:評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>

2016年度の取組み状況の確認

2016年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか？

→ はい・いいえ

<上記で「いいえ」を選んだ場合>

①理由:

②今後必要な取組み:

<評価専門委員会・第三者評価結果> 2017年1月27日公示

- ・ 実践型体験学習プログラムの取組みは、順調に進展しています。(A)
- ・ 具体的な目標に従って、進展しています。(C)
- ・ 当初の目標を上回り、順調に推移していることが窺えます。状況に応じて、今後の目標の上方修正も検討してはいかがでしょうか？(D)
- ・ 正しい価値観と豊かな人間性の形成という目標をめぐって、具体的に進捗状況も記述され、全体として適切と思われます。(E)
- ・ 順調に推移しており、大変評価できます。(F)

【A票:教育研究目標4】

(タイトル)
人権感覚の陶冶

(狙い内容)
法と政治の基本的規範理念としての人権感覚を身につけること。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

法と政治の基本的規範理念としての人権感覚を身につけるために、法学部では全新生が法学部専任教員による人権問題講演会を受講している。また、大学が主催する人権問題講演会に積極的に参加することなどにより、社会における人権についての現状と問題を認識し、多民族・多文化の共生社会を構築するという観点から人権問題をとらえることができること。

<変更時記入欄>

<変更理由記入欄:2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>

2. 達成度評価

評価指標	人権問題を主に対象とする講義の履修者が現在延べ2500人とほぼ法学部生全員が履修している状態であるので、この人数を維持する。	評価尺度	A : 2500人以上 B : 2400人以上 C : 2300人以上 D : 2200人未満	変更有無
	<変更時記入欄>		<変更時記入欄> A : B : C : D :	

3. 年度毎の目標値

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	変更有無
2015年度 (計画策定時)		A (2500人)	A (2500人)	A (2500人)	A (2500人)	A (2500人)	A (2500人)	A (2500人)	有・無
2016年度 進捗状況 & 今後の 目標値	評価 尺度: A~D	<実績> A	実績	<2016年度末時点の 見込み又は実績又は目標> A					
	見込・ 実績・ 目標 (値又は 状況)	<実績> 3,616人		<2016年度末時点の 見込み又は実績又は目標> 3,223人					

【2016年度の進捗状況について】

本年度も、人権問題を主に対象とする講義の履修者が当初の目標値である2500人を上回っており、学生が、法と政治の基本的規範理念としての人権感覚を身につけることの必要性およびその大切さを十分に理解していると思われる。次年度以降も受講者の推移を注視したい。

<変更理由記入欄:評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>

2016年度の取組み状況の確認

2016年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか? → **はい**・いいえ

<上記で「いいえ」を選んだ場合>

①理由:

②今後必要な取組み:

<評価専門委員会・第三者評価結果> 2017年1月27日公示

- ・ 人権問題の対象科目の履修者数は既に目標を達成しているため、別の目標を設定することが期待されます。(A)
- ・ 具体的な目標に従って進展しており、ほぼ法学部全員が受講していることは評価できます。(C)
- ・ 人権感覚の陶冶という目標をめぐって、進捗状況の確認も含めて具体的に叙述され、全体として適切と思われます。(E)
- ・ 当初の目標を上回り、順調に推移していることが窺えます。状況に応じて、今後の目標の上方修正も検討してはいかがでしょうか?(D)
- ・ すでに大幅に目標を達成しており順調です。今後は評価尺度の変更、たとえばのべ数から割合への変更などが考えられます。(G)
- ・ 年度ごとの目標値について、延べ人数が目標2500人を大きく超えて、2016年度について3223人と記載されていますが、人権問題を主に対象とする講義数はいくつでしょうか?わかりやすく追記されることが期待されます。(I)

【A票:教育研究目標5】

(タイトル)
国際的・地球的な視野の確保

(狙い内容)
本学の伝統を踏まえ、自由な精神に基づいて常に国際的・地球的な視野を身につけること。
これらの教育目標を、以下の実施目標として具体化しています。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

本学の伝統を踏まえ、自由な精神に基づいて常に国際的・地球的な視野を身につけるために、全学のグローバルスタディーズ科目である海外フィールドワーク・国連セミナー・世界市民論などを広く受講し、また法学部主催の法職等説明会に参加して、実際に国際的に活躍している法学部卒業生の話聞き、国際的・地球的に物ごとをとらえることの意義及び重要性をしっかりと理解すること。

<変更時記入欄>

(タイトル)
国際的・地球的な視野の確保

<変更理由記入欄:2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>

文言の修正

2. 達成度評価

評価指標	グローバルスタディーズ科目の受講者の増	評価尺度	A : 600人以上 B : 400人～599人 C : 300人～399人 D : 300人未満	変更有無
	<変更時記入欄>		<変更時記入欄> A : B : C : D :	

3. 年度毎の目標値

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	変更有無
2015年度(計画策定時)		D (278人)	C (300人)	C (350人)	B (400人)	B (450人)	B (500人)	A (600人)	
2016年度進捗状況 & 今後の目標値	評価尺度: A～D	<実績> C	実績	<2016年度末時点の見込み又は実績又は目標> B					有・無
	見込・実績・目標(値又は状況)	<実績> 360人		<2016年度末時点の見込み又は実績又は目標> 404人					

【2016年度の進捗状況について】 ←

グローバルスタディーズ科目の受講者は本年度400名を超えており、最終目標値に向かって順調に推移している。次年度以降も、学生が国際的・地球的な視野を確保するため、この科目を受講することを期待する。

<変更理由記入欄:評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>

2016年度の取組み状況の確認

2016年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか？

→ はい・いいえ

<上記で「いいえ」を選んだ場合>

- ①理由:
- ②今後必要な取組み:

<評価専門委員会・第三者評価結果> 2017年1月27日公示

- ・ 国際的・地球的な視野の確保教育という目標が、その積極的な取り組みと、成果をあげつつある進捗状況が具体的に叙述されて、自己評価がなされています。小さな点ですが、タイトルと進捗状況の「国際的・地球的な視野」は、「国際的・地球的な視野」と訂正したらいかがでしょうか。(E)
- ・ グローバルスタディーズ科目の受講者数を指標にあげられています。インプットだけでなく、受講者数というアウトプットに関する指標をあげられたことは、評価されます。さらに、その結果、学生にどのような変化が起こったのか、例えば、国際機関や国際貢献などの分野への就職者や、志す学生が増えたなどアウトカムとしての成果について目標を定めることが期待されます。(H)
- ・ グローバルスタディーズ科目の履修者が目標値を達成していることが評価できます。なお、法学部主催の法職説明会も意義あるものとして目標に設定されていますが、この点に関する進捗状況は具体的なデータで把握することが可能でしょうか。(C)
- ・ グローバルスタディーズ科目の受講者は、順調に推移しています。(A)
- ・ 順調に推移しており、大変評価できます。(F)
- ・ 当初の目標を上回り、順調に推移していることが窺えます。状況に応じて、今後の目標の上方修正も検討してはいかがでしょうか。(D)